

25日累計 1248万7113人

万博 南風

デパートの特設会場で催された「アジアの手仕事展」で黄金の繭で作った製品を販売するフィットリアーニ・黒田さん(左)と黒田正人さん(右)夫妻。横浜市のデパートで



友好紡ぐ 黄金の繭

「この繭も以前は害虫として駆除されていたんですよ」。国際野蚕学会の赤井弘会長(右)が、ジョクジャカルタ王室が繭から採取した養蚕糸を使って手工芸品に活用する研究を進めた。その結果、今ではバッグやコサージュなど五十種類以上の工芸品がこの繭から製品化されるようになった。資源を有効活用している

愛・地球博(愛知万博)長久手会場の中部九県共同館「中部千年共生村」の外壁を覆うのは、インドネシアのガの繭(クリキョラ(黄金の繭))。美しい黄色の外観は万博会場内でもひとさむ目を引く。

「外装に使われるのは初めて。日本のパビリオンに採用されたことは、わが国の白樺です」。ジョクジャカルタ・ロイヤルシルク東京事務所代表のフィットリアーニ・黒田さん(左)は目を細めた。

ジョクジャカルタ・ロイヤルシルク東京事務所代表

交流編

フィットリアーニ・黒田さん

点も評価され、愛知万博に出展された。フィットリアーニさんは「縁国層の大切な収入源となっていて、日本人が教えてくれないければ、万博に出展することもなかったでしょう」と感謝する。

インドネシア・ジャワ島中部のジョクジャカルタ出身。日本人の夫と結婚し、一九九四年から日本に住む。九七年に王室から「日本との懸け橋になってください」と依頼され、東京事務所の代表に。繭の仲介を一手に引き受け、まったく知られていな



「インドネシアの誇り」PR

い状態から、和装などの高級素材として繭の十倍の価格で取引されるまでに育てた。五月に会場を訪れたユドヨノ大統領も中部共生村に使用されていることを知り、黄金の繭を「国の誇り」とその後の、白国インドネシア館での展示を指示したという。「今は土産品コーナーで品薄とあるほど人気となっています」と話す。

フィットリアーニさんは日本国内のデパートの特設品フェアで店頭に立つてクリキョラ製品の販路拡大に努めている。「天然の色で変色しませんが」「美しい村の支援になります」。その前のような日本語にひかれ、多くの人が定を止めていく。「万博出展で、興味を持ってくれる人が増えてきた」とも笑う。

長男(左)を出産した経験から、外国人の母親と日本人の母親の交流にも力を注ぐ。「物の交流には貢献できた。これからは人の交流へつなげていきたい」。夢を語るとき笑顔が一層輝いた。

(宮崎 仁美)